



市議会議員
上田由美子
☎ 68-2106
Fax 68-2146



参議院議員
井上さとし



前衆院議員
藤野保史

9月議会 上田由美子市議の一般質問(3)



質問する上田市議

有機農業をすすめるために オーガニック・ビレッジ宣言を 国の制度を活用して

【上田市議】 今、国は緑の食料システム戦略を進めている。その中で、2050年までに目指す姿として、耕地面積に占める有機農業の取組み面積の割合を25%、つまり100万ヘクタールに拡大するとしている。オーガニック・ビレッジは有機農産物の産地作りを推進する事業で、これに取り組みば国の推進交付金がある。この実施主体は、市または、市を含む協議会となっており、県と連携して事業を進めることになる。

事業の内容としては、1番目に有機農業実施計画の策定で、内容は検討会の開催や試行的取組を実施することである。2番目に、推進体制を構築することである。補助金については、最初の年は、試行的取組などに上限1000万円、2年目は、実施計画実現への取組に上限800万円である。3年目は、条件付きで上限600万円の補助で、その後自立して有機農業を進めていくことを目指している。

学校給食にも活用できる

試行的な取り組みでは、生産だけでなく、流通・加工関係、消費関係の取組を組み合わせることが出来る。消費関係では、学校給食での活用や環境教育・食育との連携が考えられる。

国は2025年までに100市町村のオーガニック・ビレッジ宣言を目指している。富山県では南砺市と富山市で実施し、2023年度では全国で83地区となっている。

食料危機打開へ 有機農業で持続可能な農業を

ウクライナ危機により、世界は戦後最大の食料危機に直面している中で、日本の食料自給率は38%に落ち込んでいる。その上、肥料は、99%輸入に依存している。今こそ持続可能な農業を作り上げるために、有機農業に取り組む必要がある。小矢部市がオーガニック・ビレッジ宣言してはどうか。

おやべ あちこち

ヒガンバナの里 五郎丸町内



国道359号の蟹懸橋から金沢方面を望む

北蟹谷地区の五郎丸町内会では、2001年からヒガンバナの里づくりをすすめる、現在約12万本の景観を楽しめる。

年金者組合が訪れた9月25日にはたくさんの人出で賑わっていた。今年は猛暑で開花時期が遅れていたため、29日、30日にも撮影に出かけた。



ヒガンバナの里のカラー写真は上のQRコードからスマホで見ることができます。

市「先進地の事業効果を検証、検討する」

【産業建設部長】 農林水産省では、オーガニック・ビレッジ宣言を見据えて有機農業に取り組み自治体に対し、試行的な実施に支援制度を設け、地域ぐるみで生産から消費まで一貫して取り組む有機農業の拡大を推進している。また、有機農業は、昨今の価格が高騰している化学肥料や化学農薬の使用量の抑制によるコストの低減のほか、化石燃料からの切り替えによるカーボンニュートラルへの貢献などから重要性が高まっている。小矢部市では、南砺市など先進地の事業効果などを検証しながら、検討を進めていく。

【上田市議】 南砺市や富山市での取り組みについて、調査や情報収集を行っているか。

【産業建設部長】 一部聞き取りを行い、南砺市で一部公表されている資料を入手して、確認している。

【上田市議】 今、希望の持てる農業を目指し、有機農業を志す若者が増えている。市内で人を育て、県外から来る人を増やすためにも、市として有機農業を研究し、オーガニック・ビレッジ宣言を実施していただきたい。